

「中学校体育相撲指導の手引き」(改訂版)の補足
—平成29年告示・中学校学習指導要領への対応—
(令和3年3月)

平成29年に、中学校学習指導要領が改訂、告示された。この中で、教育内容の主な改善事項として、①言語能力の確実な育成、②理数教育の充実、③伝統や文化に関する教育の充実、④道徳教育の充実、⑤体験活動の充実、⑥外国語教育の充実、が示された。その「③伝統や文化に関する教育の充実」では、「古典等我が国の言語文化(国語)」、「郷土の音楽、和楽器(音楽)」、「和食や和服(家庭)」等とともに「武道(保健体育)」の指導の充実があげられ、前回の改訂で必修化された武道は、今般の改訂でも継続して必修領域として位置づけられることとなった。

また、今般の改訂においては、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的に捉えたうえで、育成すべき資質・能力を、①「何を理解し、何ができているか」＝知識・技能、②「理解していること・できることをどう使うか」＝思考力・判断力・表現力等、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」＝学びに向かう力・人間性等、という三つの柱として構造化されている。これに即して、各教科においては「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3観点で目標、内容が改善されることとなった。またこれに対応する形で、これまで4観点であった評価の観点についても、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。さらには、学習について「ゆとり」か「詰め込み」かの二項対立を乗り越え、学習内容の削減は行わず、かつ質の高い理解を図るため、「どのように学ぶのか」つまり学び方、学習過程の質に焦点が当てられた。その結果として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進があげられたのも、今回の改訂の大きな特徴の一つである。保健体育科に関わる改訂に関する詳細については、具体的な例示も含めて、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編』に示されているとおりである。

このような中、公益財団法人日本相撲連盟の中に置かれている中学校相撲授業指導法研究委員会では、令和3年4月からの新学習指導要領の全面実施を前に、『中学校学習指導要領(平成29年告示)』および『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説保健体育編』に準拠するかたちで、『中学校体育相撲指導の手引き』(改訂版)の再検討を行った。なお、新学習指導要領で、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程が強調されているのは先述のとおりだが、我々は、そもそもこうした学習過程を、今回の学習指導要領の改訂前から重視しており、その面ではもともと改訂版手引きは新学習指導要領に沿った内容のものになっていたといえる。そうした点から、本補足では、これまでの内容を大枠で継承しつつ、新学習指導要領の示すかたちで内容を再整理し、必要な修正を提示した。すでに日本相撲連盟のホームページに掲載されている改訂版手引きをあえて全面改訂しなかったのもそのためであり、改訂版手引きの「～はじめに～」に示されている「本書作成の基本方針」や「相撲

の持つ教材としての魅力」は、現時点でも変わらないものをご理解頂きたい。また、新学習指導要領解説では技能の取扱いに変更があったが、技能そのものは変わらないので、付属 DVD についても、今回は修正を見合わせた。

いずれにしても、すでに連盟ホームページに掲載されている改訂版手引き、付属 DVD、付属冊子「安全管理・指導について」、および今回提示した本補足が、これまで以上に現場の先生方の授業実践の参考として活用されれば、これに勝る喜びはない。さらに近々、日本武道協議会より発行される予定である「少年少女武道指導書」も我々委員会のメンバーで執筆したものであり、改訂版手引きや本補足と基本的な考え方が共通しているので、参考にしていただければ幸いである。

最後に、これらを活用された諸賢より、忌憚なくご意見ご批判を賜りたく、お願いしたい。結局こうした指導資料は、現場で使われることに意味があり、その現場での実践から継続的なフィードバックを受け、改善を続けなければならぬと、真に有意義なものとならないと、委員一同信じるからである。

公益財団法人 日本相撲連盟

中学校相撲授業指導法研究委員会 委員一同

1. 主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫

平成 29 年度告示・中学校学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されている。「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」とは、それぞれ以下のように規定できる。

- ・主体的な学び：運動についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら取り組み、それを考察する学びの過程
- ・対話的な学び：課題の解決に向けて、生徒が他者との対話をとおして、自己の思考を深めていく学びの過程
- ・深い学び：課題に気づき、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決していこうとする学びの過程

こうした学びを実現するための相撲授業における学習過程として、以下のような考え方を提示したい。



これは、用具や施設にしばられない、ルールが簡明で限られた技能でも攻防の展開が可能である、という相撲の特性を生かし、授業に「技能の学習→簡易試合→仲間との学び合い→課題の発見→課題解決に向けた思考と試行→気づきの共有化→新たな技能の学習→簡易試合→・・・」という流れをつくり出す学習過程である。

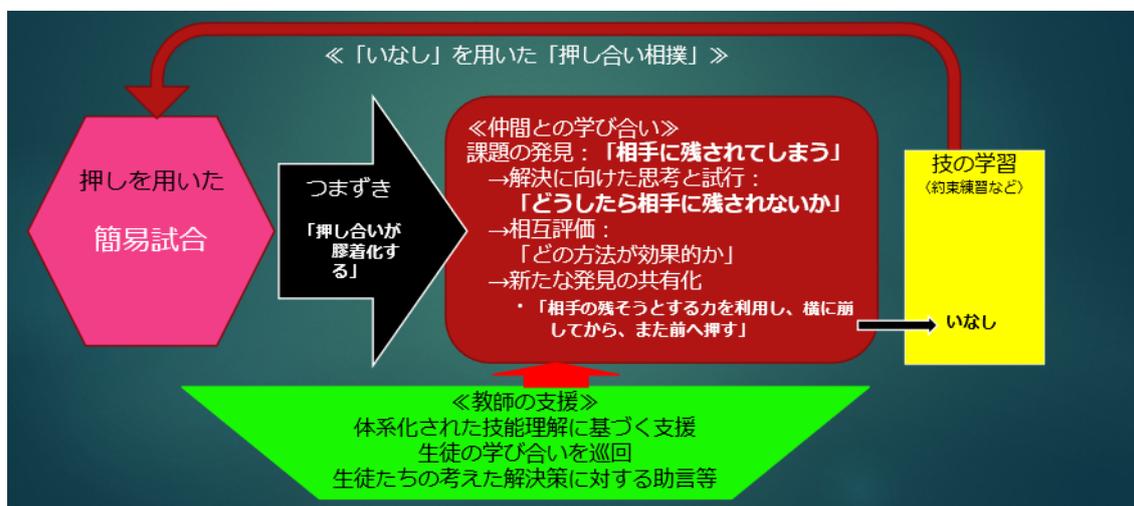
このような授業の流れの中で、生徒たちは、毎回既習の技を簡易試合で自分なりに試し、そこでのつまずきから新たな課題を見つけ、さらにその課題に対する解決法を考え、試し、仲間と教え合うことで、新たな技能への気づきが生まれる。このようにして「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を授業内で実現できるのではないかと考える。

またこうした学習過程をとおして、生徒たちは早い段階から学んだ技をその都度使い、相手と直接組み合せて攻防するという相撲の特性に触れることが可能となる。その達成感、楽しさ体験をとおして相撲に対する愛好的態度を育むことも期待できる。

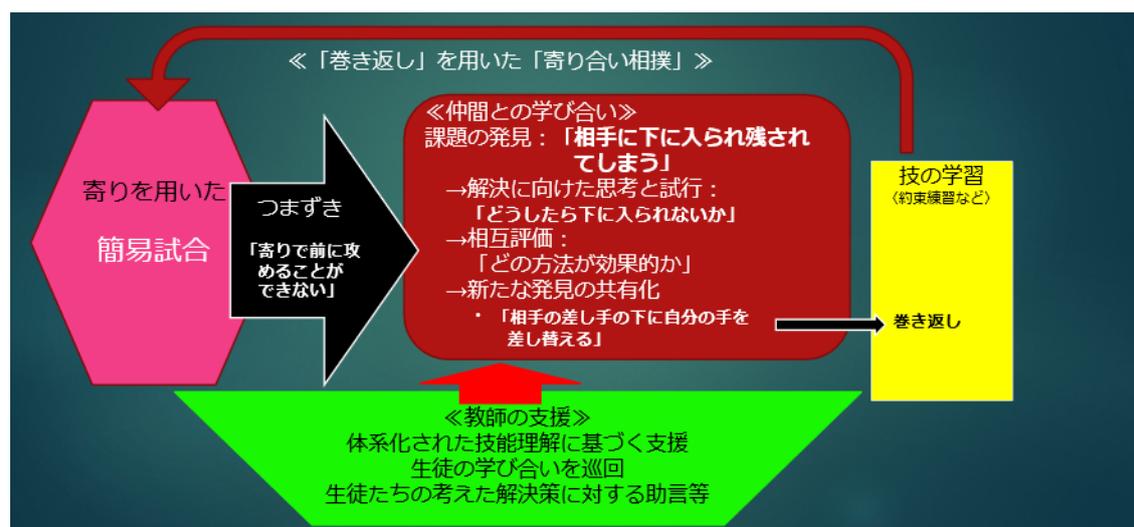
さらには、簡易試合で発見した課題から、一つひとつ新たな技能を学習していくことで、

生徒たちは技能と技能の関連や技能全体の体系を理解しながら、技能を効率的に習得することも可能となる。

このとき、課題の発見から新たな技能の学習過程で、教員による適切な指導・助言が必要となることはいうまでもない。教員は相撲の技能体系を理解し、生徒の簡易試合での攻防の質を的確に見取り、時機を捉えた適切な指導・助言を行うよう務めなくてはならない。



例1) 「押し」の簡易試合から「いなし」の学習へ



例2) 「寄り」の簡易試合から「巻き返し」の学習へ

2. 相撲の技能の指導について

技能の捉え方

本補足の中では、原則として『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編』（以下「平成 29 年解説」と表記）に例示されている技能の修正箇所について説明する。

平成 29 年解説に例示されている技能のうち、「基本動作」については、前回の解説で例示されていた「伸脚」と「調体」が削除された。今回例示されている「基本動作」は下図のとおりである。

【基本動作】（平成 20・29 年解説）

中学 1・2 年		中学 3 年	
相手の動きに応じた基本動作	蹲踞姿勢	相手の動きの変化に応じた基本動作	蹲踞姿勢
	塵浄水		塵浄水
	四股		四股
	腰割り		腰割り
	中腰の構え		中腰の構え
	運び足		運び足
	仕切りから立ち合い		仕切りから立ち合い
	受け身		受け身

「基本となる技」については、例示されている技能が前回の解説から大きく変更されている。具体的には、「突き」「押っつけ」「絞り込み」「はね上げ」「すくい投げ」が削除され、「出し投げ」が追加されるという技能の精選が行われている。以下に平成 29 年解説で例示されている「基本となる技」を示す。なお、前回の解説で例示されている基本となる技も参考に示す。

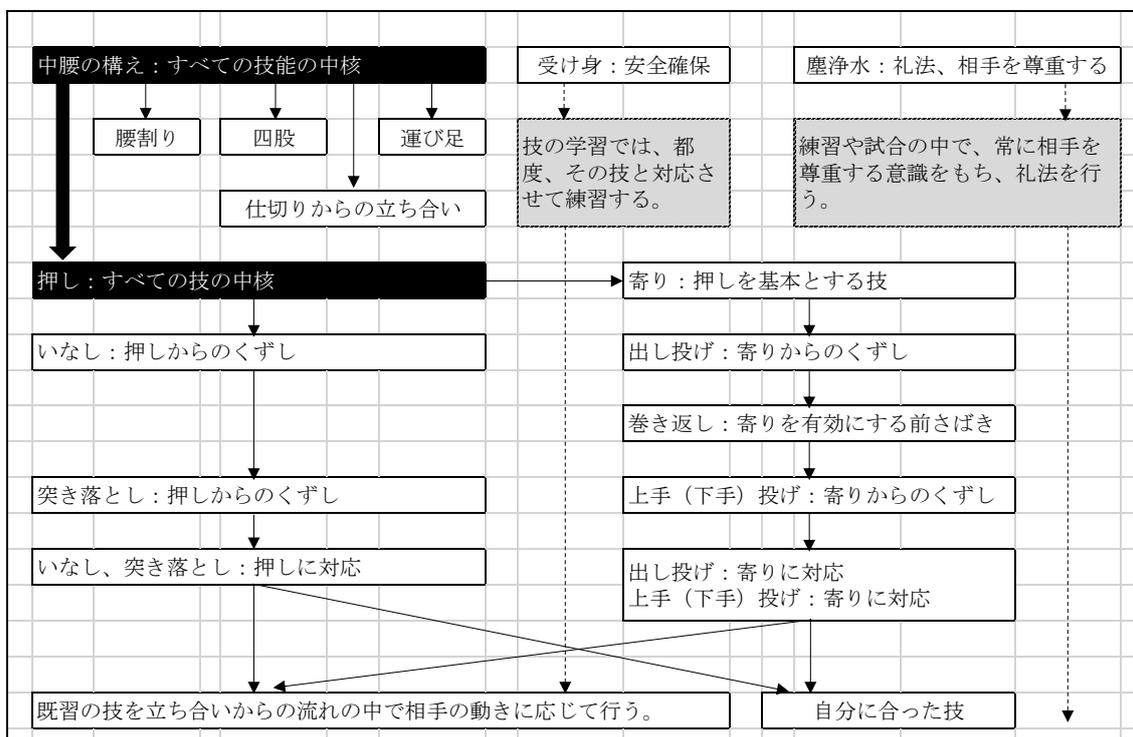
【基本となる技】（平成 29 年解説）

		中学 1・2 年	中学 3 年
押し寄り 前さばき	押し	押し	→
	寄り	寄り	→
	前さばき	いなし	→
			巻き返し
投げ技		出し投げ	→
			上手投げ
			下手投げ
			突き落とし

参考：【基本となる技】（平成 20 年解説）

		中学 1・2 年	中学 3 年
押しと 前さばき	押し	押し	→
	前さばき	押っつけ	→
		絞り込み	→
			いなし
寄りと 前さばき	寄り	寄り	→
	前さばき	巻き返し	→
突きと 前さばき	突き		突き
	前さばき		いなし
投げ技		上手投げ	→
		下手投げ	→
			すくい投げ
ひねり技			突き落とし

本補足では、平成 29 年解説に例示された技能を、中学校教科体育の授業における指導という視点で体系化し、図で示した。



<上図の説明>

- ・すべての技能の中核を「中腰の構え」とする。
- ・「中腰の構え」を基本とする技である「押し」をすべての「基本となる技」の中核とする。
- ・「押し」に「まわしを取って引きつける」という動作を加えた、「押し」の発展的機能を「寄り」とする。
- ・「四股」「腰割り」「運び足」「仕切りからの立ち合い」は「中腰の構え」を基本とした「基本動作」として位置づける。
- ・「いなし」「突き落とし」は、「押し」から派生する「基本となる技」として位置づける。
- ・「出し投げ」「巻き返し」「上手投げ」「下手投げ」は、「寄り」から派生する技として位置づける。
- ・「基本動作」のうち「塵浄水」は礼法として別立てに整理する。
- ・「基本動作」のうち「受け身」は安全確保のための動作として別立てに整理する。

今回の技能の体系化では、礼法にかかわる「塵浄水」および安全に関する「受け身」を除き、すべての「基本動作」を「中腰の構え」を基本とする動作としてまとめた。また、「押し」を中核的機能と位置づけ、「寄り」をその「押し」の発展的機能と位置づけた。そしてその他の「基本となる技」を、すべてこの「押し」と「寄り」から派生する技として整理した。例えば、「押し」からのくずしとして「いなし」を、「寄り」からのくずしとして「出し投げ」を整理することで、学習する際には「押し」と「寄り」、「いなし」と「出し投げ」をそれぞれ対になる技能として把握することもできる。

このような技能の整理は、「簡易試合を軸に、その攻防の中から課題を見つけ、新たな技能の学習につなげていく」という学習プロセスを支える重要なものである。

指導者の視点でいえば、たとえば、「押し」を用いた簡易試合の中で、「押し合いが膠着化してしまう」という課題が生徒から出された場合、それを解決する手立てとして「いなし」という技能に気づかせていくよう、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を支援していくことが可能である。また、「寄ろうとしても、相手が中に入っていて、自分が低くなって寄り進むことができない」という課題が生徒から出された場合は、「巻き返し」という技能につなげていけるようサポートすることができる。

一方、生徒の視点からいえば、それぞれの技能間の関係性を把握しながら、整理した形で相撲の技能の学習を進めることができる。また、技能でつまづきがあった際、常に基本には「押し」と「中腰の構え」があるという意識のもとで、基本に立ち返り自ら技能の確認ができるので、自主的学習にもつながりやすいといえる。

また、今回の技能の体系化では、中核的機能とそこから派生する技というかたちで技能を整理し、技能に授業で取り扱う際の軽重をつけた。これは、『塵浄水』（＝礼法）と『受け身』（＝安全確保の技能）を学習させたうえで、『中腰の構え』と『押し』についてしっかりと身につけられるよう指導すれば、その他の技能については必ずしも過度の習熟を求めな

い」という提案でもある。このことは、生徒の実態や単元の時数など各校の事情により、取り扱う技能を精選する必要がある場合の参考となろう。ちなみに、平成27年度から3年間にわたって行われた武道授業の検証(※)では、常に授業者から「取り扱う技能に対して時間数が足りない」という声が聞かれており、そうした意味でこのような技能の体系化は、現場の要請に応えるものと考えている。また、「押し」以外の技については、全員が習熟する必要はなく、「各自が自分の体格や技能、目的に応じて磨いていく技を決めるための選択肢となるように、一度学習させ経験させておく技」と考えることができる。このことは、限られた時間で多くの技能を教え込まなくては、という力みからも解放されるという点で、現場教師の悩みの解消につながると考えている。

※「一武道等指導充実・資質向上支援事業」に係る武道指導に関する調査

(平成30年3月 東京女子体育大学 調査研究代表：本村清人)

単元計画図（中学校第1学年）

教師が主導し、基本動作と基本となる技を学ぶとともに、対話的な活動をする場面を設定する。

技の学び方を身につけ、自主的・対話的な学習を進める基礎をつくる。

単元の展開		なか①							なか②		まとめ
授業の展開	はじめ	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0分	・オリエンテーション ◇単元目標、学習の仕方 ◇基本知識 歴史、特性、礼法、用具 ◇体ほぐしの運動（相撲遊び）	<p>本時のねらい、準備運動、体ほぐしの運動（相撲遊び）</p> <p>基本動作</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇蹲踞姿勢、塵浄水、中腰の構え ◇腰割り、四股 ◇運び足 ◇仕切り、簡易的な立ち合い ◇受け身 <p>基本となる技</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇押し ◇寄り ◇その関連技術※ <p>・技の練習法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇反復練習 ◇約束練習 ◇自由練習 <p>※グループでの課題解決型の学習活動</p> <p>簡易的な試合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本となる技を用いた相撲 ◇陣取り相撲 ◇押し合い相撲 ◇寄り合い相撲 ◇技を限定した相撲 							<p>・簡易ルールでの試合</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇体格別個人戦 ◇団体戦（3～9人制） 		
50分		整理運動、教師による評価（生徒による自己・相互評価）									<p>学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング ・単元の成果の確認 テスト 相互評価 ・次の単元に向けた課題の明確化

※関連技術
相手の動きに応じながら、技を有効にするための諸技術

- 押しの関連技術
低い姿勢から押し上げる。脇をしめる。背中を丸める。
- 寄りの関連技術
下手は深く取り、上手は浅く取る。差した側の腕を返す。下手側に寄る。吊り寄り。がぶり寄り
- 出し投げの関連技術
前へ出て相手に圧力をかけてから投げる。相手が踏ん張ったところで体を開いてを投げる。投げを打った後、さらに前へ出る。

基本となる技を学ぶことができるように工夫する。

既習技を用いて、試合を経験する中で、相撲の楽しさを学ぶことができるように配慮する。

単元計画図（中学校第2学年）

つまずきに気づき、課題解決学習を行うことで、新たな技を身につけていく学習の基礎をつくる。

それぞれの課題を見つけ、自主的・対話的に学習できるようにする。

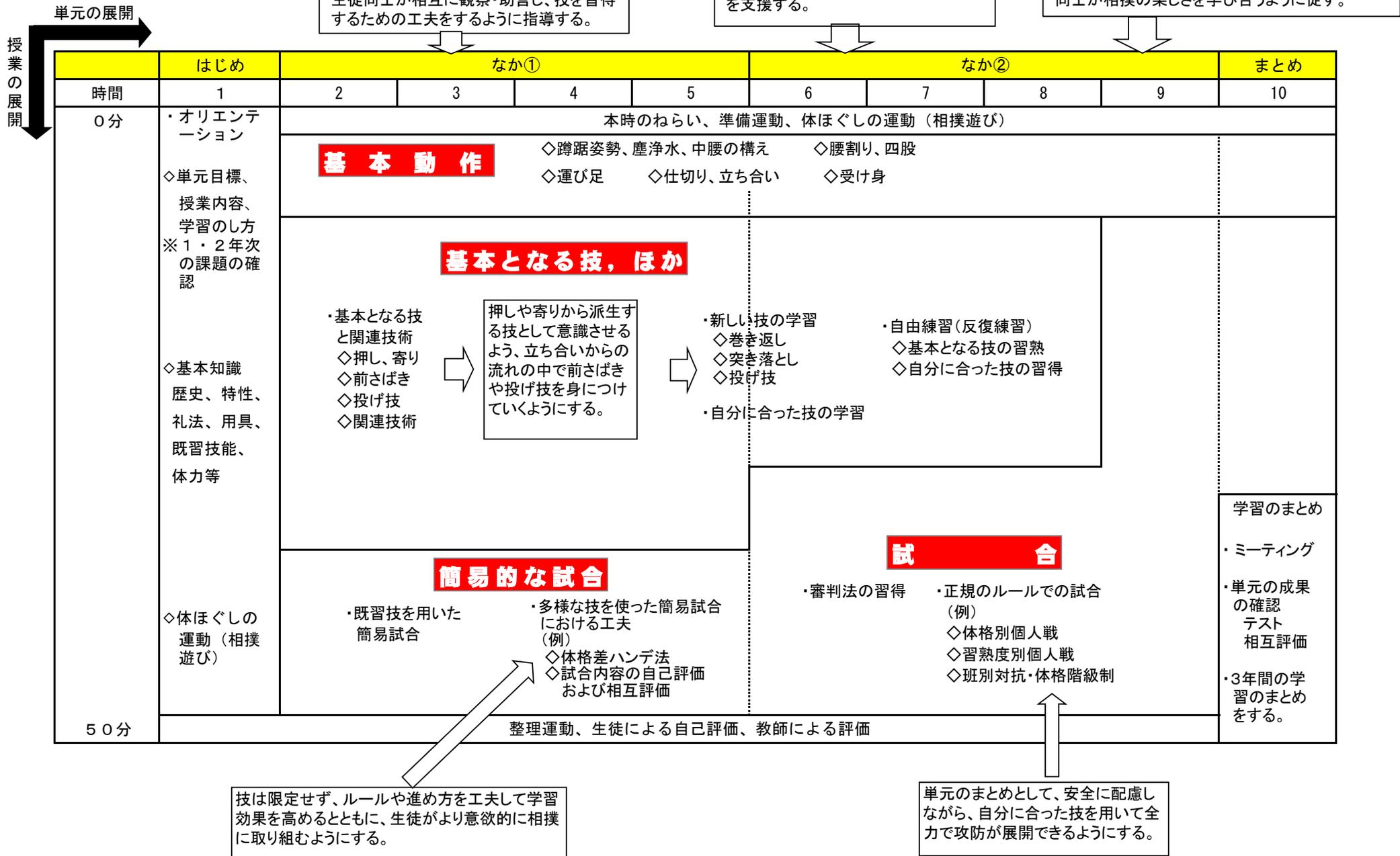
単元の展開
授業の展開

時間	はじめ	なか①				なか②			まとめ		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0分	・オリエンテーション	本時のねらい、準備運動、体ほぐしの運動（相撲遊び）									
	◇単元目標、学習のし方	基本動作				◇蹲踞姿勢、塵浄水、中腰の構え ◇腰割り、四股、運び足 ◇仕切り、簡易的な立ち合い ◇受け身					
	◇基本知識の確認 歴史、特性、礼法、用具	基本となる技				◇基本となる技とその関連技術※ ◇押しとその関連技術 ◇寄りとその関連技術 ◇いなし ◇出し投げ			◇技の練習方法> 約束練習 反復練習 自由練習		※グループでの自主的・対話的な課題解決型の学習活動
	◇体ほぐしの運動（相撲遊び）	簡易的な試合				◇基本となる技を用いた相撲 ◇既習技を用いた相撲			◇簡易ルールでの試合（例） ◇個人戦（リーグ戦・トーナメント戦） ◇習熟度別個人戦（リーグ戦・トーナメント戦） ◇団体戦（3～9人制）		
50分		整理運動、教師による評価（生徒による自己・相互評価）							学習のまとめ ・ミーティング ・単元の成果の確認 テスト 相互評価 ・次の単元に向けた課題の明確化		

基本となる技を確認しながら、相撲を楽しむことができるようにする。

既習技を用いて、異なる形式での試合を経験する中で、自ら相撲を楽しむことができるようにする。

単元計画図（中学校第3学年）



単元計画Ⅰ（中学１年）

- 1 領 域 「武道」
- 2 単 元 「相撲」
- 3 対 象 中学校第１学年
- 4 授業時数 １０単位時間
- 5 単元目標（学習のねらい）

（１）知識・技能

- 相撲の特性や成り立ち、礼法、技の名称・行い方などを理解する。
- 基本動作や基本となる技（押し、寄り）ができる。
- 基本動作や基本となる技を用いて、押したり寄ったりするなどの簡易な攻防を展開できる。

（２）思考力・判断力・表現力等

- 攻防などにおいて自己の課題を発見することができる。
- 課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。
- 自己の考えたことを他者に伝えることができる。

（３）学びに向かう力・人間性等

- 相撲に積極的に取り組むことができる。
- 分担した役割を果たそうとすることができる。
- 禁じ技を用いないなど健康安全に気を配ることができる。

単元計画Ⅱ（中学２年）

- 1 領 域 「武道」
- 2 単 元 「相撲」
- 3 対 象 中学校第２学年
- 4 授業時数 １０単位時間
- 5 単元目標（学習のねらい）

（１）知識・技能

- 武道の伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。
- 基本動作や基本となる技（押し、寄り、前さばき、投げ技）ができる。
- 基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きに応じながら、押したり寄ったりするなどの簡易な攻防を展開できる。

（２）思考力・判断力・表現力等

- 課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。
- 自己の考えたことを他者に伝えることができる。

（３）学びに向かう力・人間性等

- 楽しさや喜びを味わいながら、相撲に積極的に取り組むことができる。
- 相手を尊重し、伝統的な行動のし方を守ろうとすることができる
- 一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするすることができる。

単元計画Ⅲ（中学3年）

- 1 領 域 「武道」
- 2 単 元 「相撲」
- 3 対 象 中学校第3学年
- 4 授業時数 10単位時間
- 5 単元目標（学習のねらい）

（1）知識・技能

- 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古のし方、体力の高め方などを理解する。
- 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技（押し、寄り、前さばき、投げ技）ができる。
- 基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じながら、相手を崩して、投げたりいなしたりするなどの攻防を展開できる。

（2）思考力・判断力・表現力等

- 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。
- 自己の考えたことを他者に伝えることができる。

（3）学びに向かう力・人間性等

- 楽しさや喜びを味わいながら、相撲に自主的に取り組むことができる。
- 相手を尊重し、伝統的な行動のし方を大切にすることができる。
- 自己の責任を果たそうとすることができる。
- 一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするすることができる。
- 健康安全を確保することができる。

評価規準（中学校第1学年）

	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	運動の知識・技能	
			知識	技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ●相撲に積極的に取り組もうとしている。 ●禁じ技を用いないなど健康安全に気を配っている。 ●分担した役割を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●攻防などにおいて自己の課題を発見している。 ●課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ●自己の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●相撲の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ●技の名称・行い方について、学習した具体例をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本動作や基本となる技ができる。 ●基本動作や基本となる技を用いて、押ししたり寄りたりするなどの簡易な攻防を展開できる。
学習活動に即した具体の評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①相撲遊びに関心を持ち、楽しんで取り組んでいる。 ②禁止事項を行わないなど、安全に留意して学習に取り組んでいる。 ③用具等の準備や片づけ、審判など分担した役割を果たそうとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①簡易な攻防の中から、技のポイントを見つけている。 ②提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題やできばえを伝えている。 ③提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ④学習した安全の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①相撲の特性について、言ったり書き出したりしている。 ②相撲の技の名称とポイントについて、学習した具体例をあげている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①蹲踞姿勢と塵浄水では、正しい姿勢や形をとることができる。 ②中腰の構えでは、重心を低くした姿勢を取ることができる。 ③相手を押すことができる。 ④相手のまわしを引きつけて寄ることができる。 ⑤基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開できる。

評価規準（中学校第2学年）

	主体的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	運動の知識・技能	
			知識	技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ●楽しさや喜びを味わいながら、相撲に積極的に取り組むようとしている。 ●相手を尊重し、伝統的な行動のし方を守ろうとしている。 ●一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●攻防などにおいて自己の課題を発見している。 ●課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ●自己の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●武道の伝統的な考え方について、言ったり書き出したりしている。 ●技の名称や行い方について、学習した具体例をあげている。 ●関連して高まる体力などについて、言ったり書き出したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本動作や基本となる技ができる。 ●基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きに応じながら、押ししたり寄りたりするなどの簡易な攻防を展開できる。
学習活動に即した具体の評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①楽しさや喜びを味わいながら、相撲の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し、礼法、所作等の伝統的な行動のし方を守ろうとしている。 ③グループ学習や簡易的な試合の際に、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題やできばえを伝えている。 ②仲間の伝統的な所作等の良い点を見つけ、理由を添えて他者に伝えている。 ③体力や技能、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合の行い方を見つけ、仲間に伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①武道には技能の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、言ったり書き出している。 ②技の名称と技術的ポイントについて、学習した具体例をあげている。 ③相撲で高まる体力要素について、言ったり書き出している。 ④試合の行い方、ごく簡単な試合におけるルール、審判および運営のし方について、学習した具体例をあげている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①四股では、重心を低くした動きができる。 ②相手の動きや技に応じて受け身を取ることができる。 ③押し込んでから体を開き相手が攻め返してくる方向にいなすことができる。 ④寄って出してから体を開き側方に出すように出し投げを打つことができる。 ⑤相手の動きに応じて、基本となる技およびそれらの関連技術を用いて、攻防を展開できる。

評価規準（中学校第3学年）

	主體的に学習に取り組む態度	思考力・判断力・表現力等	運動の知識・技能	
			知識	技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ●楽しさや喜びを味わいながら、相撲に自主的に取り組もうとしている。 ●相手を尊重し、伝統的な行動のし方を大切にしようとしている。 ●自己の責任を果たそうとしている。 ●一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ●健康安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ●自己の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な考え方について、学習した具体例をあげている。 ●技の名称や見取り稽古のし方について、学習した具体例をあげている。 ●体力の高め方について、学習した具体例をあげている。 ●試合の行い方について、学習した具体例をあげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技ができる。 ●基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じながら、相手を崩して、投げたりいなしたりするなどの攻防を展開できる。
学習活動に即した具体的評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わいながら、相撲の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し、伝統的な礼法、所作を大切にしようとしている。 ③仲間と互いに各自の役割を確認し、自己の責任を果たそうとしている。 ④一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ⑤健康・安全を確保している。 	<ol style="list-style-type: none"> ①見取り稽古などから、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、練習の成果や改善するポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ③体力や技能、性別の違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法やその活動を見直す方法を見つけている。 ④健康や安全を確保するため、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ⑤相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。 ⑥武道の学習成果を踏まえて、武道を継続して楽しむための「する、みる、支える、知る」といった多様な関わり方のうち、自己に適した方法を見つけている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていくうえで有意義であることについて、具体例をあげている。 ②技の名称や特有の運動観察の方法である見取り稽古のし方について、学習した具体例をあげている。 ③相撲で高まる体力要素について、言ったり書き出したりしている。 ④試合の行い方、ルール、審判および運営のし方について、学習した具体例をあげている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①中腰の構えでは、重心を低くし安定した姿勢をとることができる。 ②相手の動きや技に応じて、安定して受け身をとることができる。 ③前さばき（巻き返し）ができる。 ④自分の体格や体力、技能に合った基本となる技を身に付けることができる。 ⑤相手の動きの変化に応じながら、基本となる技や自分に合った技を用いて攻防を展開することができる。

新学習指導要領に対応した【中学校第1学年】(10時間扱い) 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	学習計画を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 中腰の構えの重要性に気づき、相撲の基本動作および基本となる技を身につける。 簡単な試合をおして相撲に親しみ、安全に留意しながら、積極的に活動に取り組む。 							<ul style="list-style-type: none"> 基本となる技を身につけ、押し寄りや寄りして簡易な攻防を展開する。 仲間との学習において、分担した役割を果たそうとするともに、自己の考えを相手に伝え、課題の合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫する。 	
学習の流れ	0分	オリエンテーション 声かけ: 相撲に特有の姿勢や動きの模倣の説明、安易にほめない(ほめられることが恥ずかしい)など 技能のポイント: 押しの際の手を置く位置「胸、脇の下」→「腰、上腕」など ・あいさつ ・伝統的な行動のし方 ・健康観察 ・本時の学習の見通し								
	10分	○学習の進め方等を知る。 ①学習計画 ②特性や成り立ち	○準備運動 ・ストレッチなど	準備運動 ・既習の基本動作と受け身(復習をかねて)			○基本となる技 ①押し ②寄り ③押し、寄りの関連技術・くずし ※それぞれの技に応じた受け身の練習も行おう。			①チームでのミーティング ②チーム練習
	20分	③伝統的な考え方 ④相撲遊び ・手押し相撲 ・手引き相撲	○基本動作 I ①蹲居姿勢 ②塵浄水 ③中腰の構え	反復練習	○基本動作 II ①運び足 ②四股 ③簡易的な立ち合い	安全に配慮した工夫例)中腰の構えで互いに両手の平を合わせた状態から			○簡単な試合(団体戦) ①競技方法・略式審判法・禁止事項 ②既習技を中心とした相撲	
	30分	⑤本時の振り返り ⑥次時の確認 ・グループ分け	○受け身 ①蹲居姿勢から(前後左右に) ②蹲居相撲	○基本となる技 ◆小グループでの課題解決学習の形で ①押し ②押しの関連技術・くずし ③寄り ④寄りの関連技術・くずし ※それぞれの技に応じた受け身の練習も行おう。			○簡単な試合(体格別個人戦) ①競技方法・略式審判法・禁止事項 ②既習技を中心とした相撲			
	40分		○簡単な試合 ①陣取り相撲 ②グループ活動 自由な押し合いの中で技能のポイントについて考え、話し合う。	実践的練習	○基本となる技 ①押し ②押しの関連技術・くずし ③寄り ④寄りの関連技術・くずし ※それぞれの技に応じた受け身の練習も行おう。			○簡単な試合(体格別個人戦) ①競技方法・略式審判法・禁止事項 ②既習技を中心とした相撲	③チームミーティング ④学習成果の発表、相互評価 ⑤小テストおよび総括 ⑥学習カードの記入	
	50分		○簡単な試合 ①陣取り相撲 ②押し合い相撲 ③寄り合い相撲 ④技を限定した相撲	礼法の徹底 安全に配慮したルール			○簡単な試合(体格別個人戦) ①競技方法・略式審判法・禁止事項 ②既習技を中心とした相撲			③チームミーティング ④学習成果の発表、相互評価 ⑤小テストおよび総括 ⑥学習カードの記入
50分	・整理運動 ・本時の振り返り ・次時の連絡 ・あいさつ 女子の活動については、声かけ、練習場所の設定、技能のポイントなど、発達段階に応じた配慮を行う。									

技能	基本動作と受け身				基本となる技				攻防の展開		
	①蹲居姿勢	①塵浄水	○受け身	○腰割り	②中腰の構え	○運び足	○四股	○仕切りからの立ち合い	⑤基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開できる。		
知識	← ①特性・成り立ち				← ②押しの関連技術・くずし						
	← ②技の名称・ポイント				← ③寄り						
指導内容	← ①特性・成り立ち				← ③寄り						
	← ②技の名称・ポイント				← ④寄りの関連技術・くずし						
思考力判断力表現力等	①簡易な攻防の中から、技のポイントを見つけている。		③提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。		②提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題やできばえを伝えている。		④学習した安全の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。				
学びに向かう力・人間性等	①相撲遊びに関心をもち、楽しんで取り組んでいる。				②禁止事項を行わないなど、安全に留意して学習に取り組んでいる。		③用具等の準備や片づけ、審判など分担した役割を果たそうとしている。				
評価	技	← ①観察		← ②観察		← ③観察		← ④観察		← ⑥観察	
	知	← ①発言・学習ノート		← ③発言・学習ノート		← ②観察		← ②発言・学習ノート		← ④発言・学習ノート	
	思判表	← ①観察		← ②観察		← ③観察		← ④観察		← ①②テスト ①②学習カード	
態度	← ①観察		← ②観察		← ③観察		← ④観察				

※ 「評価」の欄の、「技」は「技能」を、「知」は「知識」を、「思判表」は「思考力・判断力・表現力等」を、「態度」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

※ 「指導内容」および「評価」の欄の丸数字は、前掲の『評価規準』の表内の丸数字と対応している。

新学習指導要領に対応した【中学校第2学年】(10時間扱い)指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	学習計画を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の動きに応じた基本となる技を身につける。 相撲の練習により高まる体力について理解する。 相手を尊重し、礼法や伝統的な所作を大切にしようとする。 						<ul style="list-style-type: none"> 基本動作および基本となる技を身につけ、相手の動きに応じて簡易な攻防を展開する。 人間形成を図るという武道の伝統的な考え方を理解する。 課題の合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝える。 相撲の学習に積極的に取り組むとともに、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとする。 		学習のまとめをする。
学習の流れ	0分	○オリエンテーション 学習の進め方を知る。								
	10分	①学習計画	○基本動作と受け身 ①中腰の構え ②四股 ③受け身 ④運び足 ⑤簡易的な立ち合い ※基本動作の学習と合わせて関連して高まる体力について理解する。						自主活動や班別活動における課題の見つけ方、練習方法の選択の仕方、課題解決学習の進め方について具体的に提示	
	20分	②前年の復習 ・特性や成り立ち ・伝統的な行動の仕方 ・技の名称行い方	○基本となる技 <相手の動きに応じて技を用いることができるよう、実戦的に練習する。> 【1年の復習として】 ①押しとその関連技術(くずし) ③押し ⑥寄り ②寄りとその関連技術(くずし) ④いなし(押しからのくずし) ⑦出し投げ(寄りからのくずし) ⑧巻き返し(寄りと連動した前さばき)						○簡単な試合 グループ活動 <班別自主的学習> 押しグループと寄りグループに分かれて行う。 ※それぞれの技に応じた受け身の練習も行う。	
	30分	③準備運動・補助運動 ①ストレッチ ②準備運動	○簡単な試合 ①既習の技を用いた試合 ※学習した技能を用いて簡単な試合を行い、課題を見つけ次の学習に活かすようにする。						○簡単な試合 ②団体戦 ③習熟度別個人戦	
	40分	④簡単な試合(復習)	○簡単な試合 ①既習の技を用いた試合 ※学習した技能を用いて簡単な試合を行い、課題を見つけ次の学習に活かすようにする。						○学習のまとめ ①グループミーティング ②学習成果の発表、相互評価 ③小テスト、総括 ④学習カードの記入	
50分	⑤まとめ ①本時の振り返り ②次時の確認 ・グループ分け	略式の審判法 禁止事項の設定 礼法(伝統的な所作)の徹底 審判・記録等の役割分担 女子の活動については、声かけ、練習場所の設定、技能のポイントなど、発達段階に応じた配慮を行う。						競技方法、審判法 ・役割分担 ・禁止事項 ・礼法		

技能	基本動作と受け身	○中腰の構え ○受け身 ①四股 ○運び足 ○仕切りからの立ち合い				攻防の展開			
	基本となる技	○押し、寄りとその関連技術、くずし ②相手の動きや技に応じた受け身 ③押しと前さばき(いなし) ④寄りと投げ技(出し投げ) ○寄りと前さばき(巻き返し)				⑤相手の動きに応じて、基本となる技およびそれらの関連技術を用いて、攻防を展開できる。			
指導内容	知識					④試合の行い方、ルール、審判法			
	思考力・判断力・表現力等	②仲間の伝統的な所作等の良い点を見つけ、理由を添えて他者に伝えている。				①提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題やできばえを伝えている。 ③体力や技能、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合の行い方を見つけ、仲間に伝えている。			
評価	技	②観察 ③観察 ①観察 ④観察				⑤観察			
	知	②学習ノート				③学習ノート ④学習ノート ①～④小テスト ①②学習ノート			
思判表	②発言・学習ノート				①発言・学習ノート ③発言・学習ノート				
態度	②観察				①観察 ③観察				

※「評価」の欄の、「技」は「技能」を、「知」は「知識」を、「思判表」は「思考力・判断力・表現力等」を、「態度」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

※「指導内容」および「評価」の欄の丸数字は、前掲の「評価規準」の表内の丸数字と対応している。

新学習指導要領に対応した【中学校第3学年】(10時間扱い) 指導と評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
ねらい	学習計画を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 相撲の学習に自主的に取り組む。 見取り稽古の方法を学び、相手の動きの変化に応じた基本動作、基本となる技を身につける。 健康・安全を確保するとともに、相手を尊重し、伝統的な所作や礼法を大切にすること。 				<ul style="list-style-type: none"> グループ活動では自己の責任を果たすとともに、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自分の考えたことを他者に伝える。 自分に合った技を高め、相手の動きの変化に応じながら、攻防を展開する。 相撲の楽しさを味わうとともに、一人ひとりの違いに応じた課題の設定や挑戦を大切に、これからの生活で、武道に関わり、その中で学び得たことを生かす下地をつくる。 				学習のまとめをする。	
学習の流れ	0分	オリエンテーション		あいさつ		健康観察		本時の学習の見通し		ストレッチ等準備体操	
	10分	①前年までの復習		<ul style="list-style-type: none"> 特性や成り立ち 伝統的な考え方 体力の高め方 技の名称や行い方 		<ul style="list-style-type: none"> 準備運動、補強運動としてグループごとに要点等を確認しながら行う。 特に、受け身については、安全確保のためにも、簡易的な方法から徐々に正規の方法に近づけ、実戦的に練習する。 簡易的な立ち合いから状況を見て正規の立ち合いへ 		<ul style="list-style-type: none"> 基本動作と受け身 		<ul style="list-style-type: none"> 体格差、技能差に配慮した試合 	
	20分	②武道を学習する意義		③学習計画		④グループ編成		<ul style="list-style-type: none"> 基本となる技(自分に合った技を磨く)【課題決定的な学習】 体格や習熟度に配慮し、押し、寄りのグループに分かれ、グループ活動を行う。 ※自己の体力、能力、習熟度等に合わせた攻防のし方や磨きたい技を選ぶ。 ※課題に合わせた練習方法等を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> 試合Ⅱ ⑤グループ別個人リーグ戦 ⑥体格に考慮した団体戦(5人制~7人制) 	
	30分	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動・補助運動 ①ストレッチ ②準備運動 		<ul style="list-style-type: none"> ①押し・寄りとその関連技術(復習) ②押しといなし、寄りとし投げ(復習) 		<ul style="list-style-type: none"> ①押し、寄り 立ち合いからの流れ ②寄りと運動した巻き返し(前さばき) ③投げ技・突き落とし 自分の攻めの手段として相手の攻めに対する応じとして ※相手の動きに応じて、技を用いることができるよう、実戦的な技術を学ぶ。 ※自分の体格、習熟度に応じた方法を考えながら練習する。 ※投げ技は、あくまでも寄りからのくずし、寄せられた時のくずしと理解し、相手を倒すための技能としては指導しない。 		<ul style="list-style-type: none"> 計画立案および実際の練習に当たっては、仲間と相談・協力して進める。 運動観察の方法を学び、クラブ活動の中で活かしていく。 相互に自分の考えを伝え合うなどして、学びの質を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> 相互に攻防を観察し、評価し合う。 自主的に、健康・安全を管理する。 自ら伝統的な行動のし方を大切にすること。 武道の伝統的な考え方を意識する。 勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。 	
	40分	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な試合 ①踏蹴相撲(受け身含む) ②既習技を用いた相撲 		<ul style="list-style-type: none"> ①既習技を用いた相撲 ②多様な技を用いた相撲 		<ul style="list-style-type: none"> ①試合Ⅰ ③体格別個人戦 → ④習熟度別個人戦 		<ul style="list-style-type: none"> ①簡単な試合 ③技能の系統的把握と段階的学習 		<ul style="list-style-type: none"> ④学習のまとめ ①グループミーティング ②学習成果の発表、相互評価 ③総括 ④学習カードの記入 	
50分	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ簡易試合でのつまづきからの課題解決学習をとおして、新たな技の学習へ 		<ul style="list-style-type: none"> ①審判等の役割の遂行 健康、安全の確保 ②伝統的な行動のし方の理解 技能の習熟を意図し(自由練習の前段階として) 		<ul style="list-style-type: none"> 正しい試合の方法、審判法の確認 伝統的な行動(礼法を含む)の実践 健康、安全の確保 自分に合った技の習熟に向けた仲間への助言と相互評価 		<ul style="list-style-type: none"> 女子の活動については、声かけ、練習場所の設定、技能のポイントなど、発育発達段階に応じた配慮を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 声かけ:相撲に特有の姿勢や動きの根拠の説明、安易にほめない(ほめられることが恥ずかしい)など 技能のポイント:押しの際の手を置く位置「胸、脇の下」→「腰、上腕」など ★単元計画には示せないが、生徒の実態によっては男女別習としたするなどの工夫も 		

技能	基本動作と受け身					攻防の展開					
	①中腰の構え		②受け身(重点的に)		基本となる技			④自分に合った技		⑤相手の動きの変化に応じながら、基本となる技や自分に合った技を用いて攻防を展開することができる。	
指導内容	①中腰の構え		②受け身(重点的に)		基本となる技			④自分に合った技		⑤相手の動きの変化に応じながら、基本となる技や自分に合った技を用いて攻防を展開することができる。	
	※立ち合いからの流れの中で		※自分に攻めの中で		※相手の攻めへの対応として						
	○押し、いなし ○寄り、出し投げ		③前さばき		○投げ技 ○突き落とし						
知識	③相撲で高まる体力要素について、言ったり書き出ししたりしている。							④技の名称や特有の運動観察の方法である見取り稽古のし方について、学習した具体例をあげている。		④試合の行い方、ルール、審判および運営のし方について、学習した具体例をあげている。	
思考力・判断力・表現力等	⑤相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。				①見取り稽古などから、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、練習の成果や改善するポイントとその理由を仲間に伝えている。					③体力や技能、性別の違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法やその活動を見直す方法を見つけている。	
学びに向かう力・人間性等	⑤健康・安全を確保している。		①勝敗を競う楽しさや喜びを味わいながら、相撲の学習に自主的に取り組もうとしている。		②相手を尊重し、伝統的な礼法、所作を大切にしようとしている。			③仲間と互いに各自の役割を確認し、自己の責任を果たそうとしている。		④一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	
技			①②観察		③観察			④観察		⑤観察	
知	③学習カード				②学習カード			④学習カード			
思判表	⑤発言・学習ノート		①発言・学習ノート		④発言・学習ノート			②発言・学習ノート		③発言・学習ノート	
態度	⑤観察		①観察		②観察			③観察		④観察	

※「評価」の欄の、「技」は「技能」を、「知」は「知識」を、「思判表」は「思考力・判断力・表現力等」を、「態度」は「主体的に学習に取り組む態度」を示す。
 ※「指導内容」および「評価」の欄の丸数字は、前掲の『評価標準』の表内の丸数字と対応している。

本時（1学年の2／10）

（1）目標

○簡易的な攻防の中から、技のポイントを見つけることができる。（思考力・判断力・表現力等）

（2）展開

時間・分	学習活動	指導上の留意点	学習活動に即した 具体的評価規準	評価方法
7	1. 集合、整列および挨拶をする。健康および服装の確認をする。 2. 本時のねらい、学習内容を理解する。 3. 準備運動を行う。	○出欠確認および健康観察をする。 ○服装を確認する。 上下体育着、シューズ、つめ、ヘアピン、めがね等 ○ねらい、学習内容を、生徒が理解しやすいように、工夫して説明する。 ○本時の目標、学習内容などを記述させる。		
35	4. 基本動作を身につける。（1） 蹲踞姿勢、塵浄水 5. 基本となる技の学習および簡易的な試合を行う。 押し 陣取り相撲 ～グループで～ 6. 基本動作を身につける。（2） 中腰の構え、腰割り 7. 簡易的な試合を行う。 陣取り相撲	○ポイントを確認しながら復習させる。 ○陣取り相撲の前後に必ず立礼をするよう指導する。 ○ポイントを確認し、相手を変えて数回行わせる。 ○自由な押し合いの中で、押しのポイントである「低い姿勢からの押し上げ」に気づくよう、グループごとに話し合うよう、指導する。 ○中腰の構えは、相撲の基本姿勢であることを説明したうえで、適切に手本を示し指導する。中腰の構えを長時間維持すると、足腰に過度の負担がかかることがあるので注意する。 ○腰割りは、中腰の構えを意識しながら上下に動く練習でもあることを説明する。 ※単調な活動になりがちであるので、教員が例示した動きの「間違い探し」や生徒による「誰がうまいかコンテスト」を行うなどして、生徒が関心をもって取り組むことができるように工夫する。 ○陣取り相撲の前後に必ず立礼をするよう指導する。 ○中腰の構えを意識して陣取り相撲（押し合い）を行わせる。 ○頭部がぶつからないように指導する。 ○教員の「始め」の合図で始め、相手を変えて複数回行わせる。	○簡易的な攻防の中から、技のポイントを見つけている。（思考力・判断力・表現力等）	○発言・発表、学習カード
8	8. 整理運動を行う。 9. 本時の評価と次時の課題を整理する。 10. 整列、挨拶、片づけをする。	○簡易的な試合の中で中腰の構えの重要性に気づいていた生徒を称賛する。 ○各自に、本時の学習内容、自己評価、課題、感想を学習カードに記入させる。		

本時（2学年の7／10）

（1）目標

○提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考にして、グループ学習の中で、仲間の課題やできばえを伝えることができる。（思考力・判断力・表現力等）

○相撲の学習に積極的に取り組むことができる。（学びに向かう力・人間性等）

（2）展開

時間・分	学習活動	指導上の留意点	学習活動に即した 具体的評価規準	評価方法
7	<p>1. 集合、整列および挨拶をする。健康および服装・用具の確認をする。</p> <p>2. 本時のねらい、学習内容を理解する。</p> <p>3. 準備運動を行う。</p>	<p>○出欠確認および健康観察をする。</p> <p>○服装の確認、用具の指示をする。 上下体育着、シューズ、つめ、ヘアピン、めがね等 まわし、相撲パンツ・簡易まわしまたは柔道の帯</p> <p>○理解しやすいように、工夫して説明する。</p> <p>○本時の目標、学習内容などを記述させる。</p> <p>○特に、頸部は入念に行わせる。</p>		
35	<p>4. 基本動作を復習する。 中腰の構え、四股、運び足、受け身、簡易的な立ち合い</p> <p>5. 基本となる技とその関連技術を学習する。（グループ学習） 押しとその関連技術 寄りとその関連技術 前さばき 投げとその関連技術</p> <p>6. 簡易的な試合を行う。 試合方式および審判法を学習する。 グループ対抗団体戦</p>	<p>○グループごとに要点を確認しながら行わせる。 反復練習のし方を確認する。</p> <p>○押しグループと寄りグループに分け、それぞれのグループ内で4～5人程度の小グループを編成し、練習させる。</p> <p>○巡回しながら、技のポイントを指導する。また、自主活動や班活動における課題の見つけ方、練習方法の選択のし方などを具体的に提示する。</p> <p>○練習では、技術的な課題やできばえ、課題解決に向けた有効な練習方法の選択等について、互いに助言し合いながら活動するよう指導する。</p> <p>○団体戦、個人戦、トーナメント方式、リーグ戦方式について解説する。</p> <p>○審判法、試合の運営方法等について説明する。</p> <p>○審判、記録係、進行係は、対戦のない班の生徒に交替で行わせる。</p> <p>○安全に配慮し、試合の際には、禁止事項を行わないよう指導する。</p> <p>○自分や仲間の試合をとおして気づいた点や改善すべき点について、アドバイスし合ったり、学習カードに書き留めたりするよう指導する。</p>	<p>○提示された、動きのポイントやつまずきの事例を参考にして、グループ学習の中で、仲間の課題やできばえを伝えている。（思考力・判断力・表現力等）</p> <p>○相撲の学習に積極的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）</p>	<p>○発言・発表、学習カード</p> <p>○観察</p>
8	<p>7. 整理運動を行う。</p> <p>8. 本時の評価と次時の課題を整理する。</p> <p>9. 整列、挨拶、片づけをする。</p>	<p>○グループ学習で、自分や仲間の課題や有効な練習方法について意見を伝えていた生徒、および試合の行い方やルールについて理解していた生徒を称賛する。</p> <p>○各自に、本時の学習内容、自己評価、課題、感想を学習カードに記入させる。</p>		

本時（3学年の9/10）

（1）目標

- 相手の動きの変化に応じながら、基本となる技や自分に合った技を用いて攻防を展開することができる。（知識・技能）
- 体力、技能、性別等の違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法やその活動を見直す方法を見つけている。（思考力・判断力・表現力等）

（2）展開

時間・分	学習活動	指導上の留意点	学習活動に即した 具体的評価規準	評価方法
7	<p>1. 集合、整列および挨拶をする。健康および服装の確認をする。</p> <p>2. 本時のねらい・学習内容を理解する。</p> <p>3. 準備運動を行う。</p>	<p>○出欠確認および健康観察をする。</p> <p>○服装の確認、用具の指示をする。 つめ、ヘアピン、めがね等 まわしまたは簡易まわし・相撲パンツ</p> <p>○理解しやすいように、工夫して説明する。</p> <p>○本時の目標・学習内容などを記述させる。</p> <p>○準備運動を行わせる。 特に、頸部は入念に行わせる。</p>		
35	<p>4. 基本動作を復習する。 蹲踞姿勢、塵浄水、四股、運び足、受け身、立ち合い</p> <p>5. 試合を行う。 グループ別個人リーグ戦 グループでの話し合い 体格を考慮した団体戦</p>	<p>○グループごとに要点を確認させながら練習させる。</p> <p>○グループ間でなるべく習熟度に偏りが少なくなるように、チーム編成する。</p> <p>○グループ内で、あとに行う団体戦に向けた練習もかねて、個人リーグ戦を行う。</p> <p>○個人リーグ戦終了後、グループで話し合いを持ち、団体戦の布陣を決めたり、作戦を練ったりする。</p> <p>○班対抗の団体戦を行う。</p> <p>○試合では、必ず審判に従うよう指導する。</p> <p>○禁止事項を行わないなど、自主的に安全を管理するよう指導する。</p> <p>○相互に攻防を観察し、評価し合うよう促す。</p> <p>○様々な試合の方法や多様な試合への関わり方（観戦や応援、助言など）を体験することで、自分たちが武道を楽しむための方法に気づくよう促す。</p> <p>○武道の伝統的な考え方を意識しながら試合に臨むこと、また、相手を尊重し、伝統的な礼法・所作を自ら大切にすることを指導する。</p>	<p>○相手の動きの変化に応じながら、基本となる技や自分に合った技を用いて攻防を展開することができる。（知識・技能）</p> <p>○体力、技能、性別等の違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法やその活動を見直す方法を見つけている。（思考力・判断力・表現力等）</p>	<p>○観察</p> <p>○発言、発表、学習カード</p>
8	<p>6. 整理運動を行う。</p> <p>7. 本時の評価と次時の課題を整理する。</p> <p>8. 整列、挨拶、片づけをする。</p>	<p>○試合の中で、相手の動きの変化に応じながら攻防を展開できた生徒、および仲間とともに武道を楽しむための方法を見つけていた生徒を称賛する。</p> <p>○各自に、本時の学習内容、自己評価、課題、感想を学習カードに記入させる。</p>		